

南の風 318

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

通常号の間が空いてしまいました。1on1の仕掛け方です。従来からあるドライブアタックは、足をクロスしながら（右ドリブルなら左足をクロスする）抜く方法や、ドリブルワーク（クロスオーバー等）でディフェンスを崩して抜く方法が大半を占めていました。現在は南の風でも紹介しました、オンサイドアタック（縦足のスプリットスタンス）で攻めることが主流となっています。

例えば右ドリブルの場合、右足の外側で強くドリブルをしてディフェンスを観察します。その際にディフェンスの反応を、ボールをポケット（瞬間的なトリプルスレットポジションに構えること）にためて観察します。

ディフェンスがコース（ボールとゴールを結んだラインに）に入っていないければ、そのままストレートに抜いていきます。コンタクトを嫌がらずに、左肩でディフェンスの左半身をアタックするようにして抜きます。

ボールをポケットにためた時、ディフェンスがコースチェック（ディフェンスのトルソーがボールとゴールを結んだラインにある）をしてくれば、クロスオーバードリブルチェンジで抜いていきます。この時のクロスオーバードリブルは、ディフェンスとの距離が近いので、逆サイドに鋭く切り返します。身体の前でクロスオーバーするとディフェンスの手に引っかかることがあります。そして持ち替えた手で、強くプッシュして抜くことが大事です。よくある失敗のパターンとして、クロスオーバーから持ち替える時の手の準備が遅れたり、手のひらに乗せてしまったりすることがあります。そしてボールを失くしてしまったり、ディフェンスに再度チェックされたりすることが起こるのです。

このオンサイドアタックは、理にかなったスキルです。取り組んでみる価値は大いにあります。

2 ディフェンスの考え方

私が観戦したゲーム（特に中学校）で、バックラインディフェンス（オープンディナイ、ギャップディフェンス、ノーラインディフェンスとも呼ばれる）で守るチームが増えていました。

バックラインディフェンスで守る理由は、今までのシェル型（2線はディナイでノーミドル）では、ドライブでウィークサイドを抜かれると3線がヘルプに行き、ローテーションして守るときにリバウンドの対応ができにくいこと（ローテからミスマッチになったり、ローテからのスイッチが遅れたりするとリバウンドを相手に取られる確率が高くなる）があるからだと思います。

詳しく書きます。ハーフのマンツーマンディフェンス（オフェンスは4アウト1インの2ガードアライメントでリングに向かって左ウイングがボールを持つ場面とします）です。バックラインディフェンスとはノーライン（ベースライン側には行かせず、ミドルライン方向にディレクションする守り方）が原則です。したがって、2線はオープンスタンスでボールマンとのギャップを埋めるポジション取りをします。ボールマンディフェンスは絶対にベースライン側は抜かせないように守ります。2線（この場合はガードポジションに付いていたディフェンス）は1線がドリブルでミドル側を抜かれそうになった時、素早くヘルプに出ます。 次号に続きます。